

日本視能訓練士養成施設連絡協議会
平成 21 年度教員研修会報告書

平成 22 年 3 月

平成 21 年度教員研修ワーキンググループ

はじめに

昨年度開催にこぎつけた初回に引き続き、この度、2回目となる平成21年度日本視能訓練士養成施設連絡協議会教員研修会を開催した。第1回研修会事後アンケートの結果が概ね肯定的であったため、第2回研修会も初回を踏襲した形式で行った。

基礎学力が低下していると言われている近年の学生には、自ら努力をして学ぶという姿勢が希薄で、苦労をしないで得ることを求める傾向がある。また、自らの前に壁ができると、それに立ち向かうことなく逃避してしまうこともある。このような昨今の学生の気質を背景に、学校生活や勉学でのちょっとしたつまずきや個人的なトラブルなどが発端となって学生生活全般に亘って支障を来し、教員側が対応に苦慮するような学生が以前より多くなってきてているように感じられる。第2回の教員研修会では、このような社会的背景や第1回のアンケートで頂いた意見を踏まえ、専門課程教育の指導に留まらず、学生生活全般に亘る教育指導法・指導レベルの向上を主な目的とした。教育講演に国際医療福祉大学の小林真理子先生をお招きし、「青年期のメンタルヘルス」と題して現代の若者の抱える問題とその対応についてご講演をいただいた。また、専門課程の教育指導については、第1回の教員研修会で好評だったグループワークを継続し、①Goldmann 視野計(実習)・②弱視総論(講義)の2つのテーマで授業案(コマシラバス)を作成した。それぞれのテーマに各3グループが取り組み、プレゼンテーションした。また今回は、全グループのプレゼンテーション終了後、短時間ではあったがテーマ毎に分かれて最終ディスカッションを行い、それぞれの理解を深めることを試みた。

以上、ここに第2回教員研修会の報告をする。

平成22年3月吉日

平成21年度教員研修ワーキンググループ

代表 松井 康樹 (平成医療専門学院)
島 充子 (東京医薬専門学校)
佐方 暉子 (大分視能訓練士学校)
小町 祐子 (国際医療福祉大学)

目 次

研修日程	-----	1
教育講演		
資料	-----	2
グループワーク		
学習指導案フォーマット	-----	6
「テーマ1」学習指導案		
A	-----	7
C	-----	8
E	-----	9
発表資料（A, C, E）	-----	10
「テーマ2」学習指導案		
B	-----	14
D	-----	15
F	-----	17
発表資料（B, D, F）	-----	19
テーマ総括	-----	25
研修風景（写真）	-----	27
アンケート		
フォーマット	-----	32
アンケート単純集計	-----	34
アンケート結果	-----	35
意見・感想	-----	42
会長総評	-----	44
編集後記	-----	45
加盟校一覧	-----	46

平成 21 年度 日本視能訓練士養成施設連絡協議会

第 2 回教員研修 プログラム

- 目的
1. 視能訓練士養成施設の教育レベルの向上、専門課程の教育指導法の共有化、養成校教員の個々の指導スキルの向上
 2. 第 2 回の研修では、主に専門課程の教育指導法・指導レベルの向上を目的とし、現代の若者の抱える問題とその対応について学ぶ。

受講対象者	日本視能訓練士養成施設連絡協議会 専任教員	
開催日時	平成 21 年 8 月 27 日（木）～8 月 28 日（金）	
研修会場	国際医療福祉大学大学院東京サテライトキャンパス 青山ホール	
研修テーマ	<p>テーマ 1. Goldmann 視野検査(実習) テーマ 2. 弱視総論（講義） 具体的な授業教案(コマシラバス)をグループで作成し PowerPoint にてプレゼンテーションする</p>	
教育講演	<p>講演：「学生と教員 支援と指導」（仮題） 講師：小林真理子先生 (国際医療福祉大学：臨床心理士・総合教育センター准教授・学生相談室)</p>	
8 月 27 日（木）	12:30	受付開始
	13:00	初日研修開始（ホール）
	13:00～13:10（10 分）	概略説明 (事務連絡及び研修テーマの趣旨について)
	13:10～14:20（70 分）	講演（講師：小林真理子先生）
	14:20～14:30（10 分）	会場転換及び休憩
	14:30～14:50（20 分）	コマシラバス作成レクチャー
	14:50～18:10（200 分）	グループワーク：コマシラバス作成（8 グループ程度）
	18:10～18:30（20 分）	会場転換及び休憩
	18:30～	懇親会（A 教室）
	20:00	中締め
	21:00	第 1 日目終了
8 月 28 日（金）	9:00	開場
	9:30	2 日目研修開始
	9:30～12:30（180 分）	Power Point にてプレゼンテーション、質疑応答 最終ディスカッション、研修後アンケート
	12:45～13:00（15 分）	研修総括・修了証授与（新井田会長）
	13:00	研修終了

教育講演

教育講演 「青年期のメンタルヘルスー気になる学生への対応ー」

国際医療福祉大学大学院 小林真理子 先生

<講演内容>

- 青年期とは
- 学生相談の現状から
- 青年期のメンタルな問題
- 気になる学生への対応（事例紹介と対応法）

<講演要旨>

青年期をここでは、思春期（中・高校生年代）に続く18～22歳頃の社会人になる前の大学生年代として話を進める。思春期（puberty）は、急激な身体的成熟を伴う一方で精神的には未成熟な時期である。青年期（adolescence）は、その後の自分とは何かを模索しながら、心理・社会的な適応を獲得していく時期といえる。

青年期の発達課題には、以下のようなことがあげられる。

- ・ 家族からの精神的な自立
- ・ 性役割の同一性（男性／女性として生きる）
- ・ 値値観の確立（何を大切にして生きていくか）
- ・ 職業選択（ライフスタイルを決める）
- ・ 自我同一性（ego identity）の確立

一方で、自分が何者であるか、何をしたいのかわからずやる気を失ってしまう状態（「自我同一性の拡散」）に陥ることもある（Erikson,E.H.）。青年期は、社会に出るまでの狭間期にあり、試行錯誤が許される「心理社会的モラトリアム（執行猶予期間）」の時期でもある。

今日、青年期の心理社会的モラトリアムが長期化しており、青年期を長期間想定し、青年期の学生に対して、時間をかけた成長へのサポートが必要になっている。サポートの場の一つとして、多くの大学等で「学生相談室」が開設されている。

最近の大学生の心理的特徴として、自信喪失と自信過剰といった二極化した側面を併せもち、過剰に人に気遣いをする半面、自己中心的な面も目立ち、傷つくことを恐れている学生が増えているように思われる。そしてほどよい対人関係・距離感を保てず、引きこもったり、逆に周囲を巻き込んだりしてしまう。そのため本人一人への対応ではすます、周囲の人も含めた対応や関係機関との連携が必要になってくる場合も多い。

また青年期は神経症などの心の病を発症しやすい時期であり、発達的な問題や障がいを抱えているケースもみられる。周囲が対応に苦慮するケースに対しては、

- ・公平性を保つつもり状況に応じて個別的配慮をする
 - ・キーパーソンを設定し、信頼関係を築く
 - ・必要に応じて関係機関（相談室、実習先など）・関係者が連携して対応する
- といった対応が必要であろう。

大学は、社会に巣立つ前の最後の教育機関・期間として、配慮の必要な学生に対して、その状況を理解し支援していくことが求められている。青年期は、成長のチャンスに満ちていることを信じ、学生の生きる力を育てることに助力できればと願っている。



グループワーク

研修テーマ	(教案フォーマット)					
グループ	メンバー		人数		教員歴	

学習指導案（コマシラバス）

科目名		講師名		日/時間		90分×		
対象学生		人数		授業形態				
科目目標		講義目標		準備物				
時間/段階	講義内容							
時間	指導内容・指導方法				留意点			
導入								
展開								
まとめ								

研修テーマ	弱視総論					
グループ	メンバー	A	人数	5	教員歴	~2年

学習指導案（コマシラバス）

科目名	視能訓練学	講師名		日/時間		90分×1		
対象学生	2年生	人数		授業形態	講義			
科目目標	講義目標			準備物				
斜視、弱視、眼振の定義から治療までを理解する	小児の視力の発達を学び、弱視の病因を理解する			視能学、視能矯正学、穴埋め形式のプリント				
時間/段階	講義内容							
時間	指導内容・指導方法			留意点				
導入 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弱視とは？ ・ 視力の発達 ・ 縞視力 ・ 視覚の感受性期（ポイント） ・ 片眼視力と両眼視力 ・ 読み分け困難→側方視力 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 字ひとつ視力、縞視力などを実際に見せる 				
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視的環境（まず正常なものを列挙） 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 視的環境について、異常な場合を学生に提起し、考える時間を与える ・ 異常なものを具体例として挙げる 				
まとめ 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弱視の定義と分類 ・ 定義→人によって定義が異なるため、全て列挙 ・ 分類→名前を挙げる程度 ・ 器質弱視については次回説明 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の授業内容をスライドにて提示 ・ 参考文献を紹介 ・ 時間があれば、小テスト 				

研修テーマ	弱視総論					
グループ	メンバー	C	人数	6	教員歴	2~4年

学習指導案（コマシラバス）

科目名	視能矯正学 I	講師名		日/時間		90 分×				
対象学生	2 年生前期	人数	30 名	授業形態	講義					
科目目標		講義目標		準備物						
弱視の特徴と検査、治療まで理解させる		弱視とはどういうものか理解させる		増補版 視能学 視能矯正学 改訂第 2 版増補 視能矯正－理論と実際－						
時間/段階	講義内容									
時間	指導内容・指導方法			留意点						
導入 30 分	① 例を挙げ、視力の出ない原因に弱視があることを知らせる ② 弱視には、機能弱視を器質弱視があることを伝え、今回の講義は機能弱視の説明であることを伝える			視力の出ない原因をできるだけたくさん挙げさせる						
展開 50 分	① 視機能の発達 ② 感受性期の話 ③ 正常な視的環境 ④ 定義の話			視覚の感受性期と両眼視の感受性期の違いを理解させる						
まとめ 10 分	① 弱視の定義 Bangertter の定義を例に挙げ、器質的变化がないことを強調する - 質疑応答 - 次回、具体的な原因と弱視の種類について説明を行う			① 機能弱視がわかったか ※ 学生の反応を確認する						

研修テーマ	弱視総論					
グループ	メンバー	E	人数	6	教員歴	6~19年

学習指導案 (コマシラバス)

科目名	視能訓練学	講師名		日/時間		90分×
対象学生	2年 前期	人数	40名	授業形態	講義	
科目目標	講義目標				準備物	
弱視・斜視の成因と種類を理解し、検査法や治療を学習する	弱視の定義・概念・原因について理解する				PC ポインター プロジェクター レジュメ	
時間/段階	講義内容					
時間	指導内容・指導方法				留意点	
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> 小児の視覚発達 ヒトの視覚の感受性期間について 				<ul style="list-style-type: none"> 正常な視覚発達過程を知ることで、異常な状態(つまり、弱視)に対する関心を持たせる 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> 弱視の定義、概念の変遷および弱視の原因 動物実験によるエビデンスの確立 (Hubel、Wiesel の実験) 医学的弱視と社会的・教育的弱視 医学的弱視の定義 Bangerter の定義 von Noorden の定義 植村の定義 栗屋の定義 				<ul style="list-style-type: none"> 医学的弱視と社会的・教育的弱視を区別させる 医療の進歩により、定義や概念が変化することを理解させる 定義を読み解くことで、弱視の原因を明確にさせる 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 質疑応答 小児の視覚発達 定義・概念 原因について 				<ul style="list-style-type: none"> 理解度を確認する 指名する 	

A班 弱視総論

- ・科目名:視能訓練学
- ・科目目標:斜視、弱視、眼振の定義から治療までを理解する。
- ・講義目標:小児視力の発達特性を学び、弱視の病因を理解する。
- ・準備物:視能学、視能矯正学
- ・講義形式:穴うめ形式のプリントを配布

導入(40分)

- ・弱視とは?
- ・視力の発達
- ・綱視標を用いて測定する綱視力
- ・生後の視力発達
- ・視覚の感受性期間
- ・小児視力の特徴
 - 1)片眼視力と両眼視力
 - 2)字ひとつ視力と字づまり視力
 - 3)読みわけ困難、こみあい現象

導入(40分)

- ・留意点
字ひとつ視力標、綱視力標を実際に見せる。

展開(30分)

- ・弱視の病因論
(正常な視的環境、異常な視的環境について)
*まずは正常な視的環境を挙げる。
次に異常なものを具体例として挙げる。

展開(30分)

- ・留意点
視的環境について、異なる場合を学生に問題提起し考える時間を与える。

第2回 教員研修 弱視経験 グループC

前提条件

- ① 対象学年: 2年生 対象 (人数: 30名)
- ② 対象名: 弱視経験者 1
- ③ コマ数: 16コマの1コマ
- ④ 時間: 1コマ 90分
- ⑤ 対象目標: 弱視の特徴と検査、治療まで理解させる
- ⑥ 説明目標: 弱視とはどういったものかを理解する
- ⑦ 準備物: 弱視手帳(印), 弱視経験者, 弱視検査

導入 (30分)

① ひとつの弱視手帳、どのような問題があるか考え方せる
Ex) 5歳の子供に视力検査を行ったところ视力が出てなかった。
何が考えられるか?

学生的アンサー: 呼吸?集中力?検査の仕方?

たくさん書かればOK!!

先生的アンサー: 弱視!! →これも考えてね。

導入

- ① 弱視の説明
- ② 弱視とは...
『弱視とは... (ギャッターフィルム)』
- 実際に書かれた意見を利用して説明
- 弱視弱視:
- 弱視弱視:
- ③ 今度での弱視は**弱視経験**の説明であることを強調

展開 (60分)

- ① 弱視弱の発達
- ② 弱視弱弱の対応
- ③ 正常な弱視経験(弱視矯正手 P215)
「外界の被視物が眼の中心窓に、同時に、弱視な眼
を被ることができる条件」
- ④ 定義の対応...

まとめ (5分)

- ① 弱視の定義
- Bangertterの定義(弱視学 P406)
「弱視的変化がないか、あってもそれでは弱視のつか
ない程度の弱視経験」
- ほかにもたくさん定義はあるけれど...
- 具体的な弱視の原因は次回へ...

質疑応答 (Q&A)

■ 学生からの質問に答えます

留意点

① 増入

質問板の導入ができるだけたくさんのお見せを行なえ
之上

② 質問

被説の優劣性と開拓道の優劣性は別々

③ 終り

被説問題を分かったか!! これがすべて



ご清聴ありがとうございました。

研究方法	被试特征	结果与讨论
实验法 观察法	小学四年级学生 七下册教材的感性认识水平	研究发现小学生对教材的感性认识水平普遍较低，需要在以后的教材设计中更加注重学生的感性认识。

実施の指標と操作内容／標準内容	
実行	①認定の実務、既往の実績に基づく認定の実現。 認定実務による工具・ツールの構造 (計画実施、Mitsueiの実績) 既往の実績と社会的・教育的実績 既往の実績の影響 Engagementの実現 new Mitsueiの実現 業務の定義 基準の実現

会員登録情報		登録内容
会員登録 用件	姓姓の書 い姓の性別 性別・性別 性別	登録用件を 確認する

研修テーマ		詳細記録				
セミナー名	セミナー会場	人数	性別	年齢層	開催日時	
半導体接着工法セミナー						
担当者	講座開講者	出席名	性別	年齢層	開催日時	
担当者名	講座開講者	性別	年齢層	講師名		
担当者性別	講座開講者	年齢層	講師名			
担当者年齢層	講座開講者	講師名				
担当者性別と年齢層を用意	講座開講者	年齢層	講師名			
担当者性別と年齢層を用意する	講師名					

指導案作成のグループディスカッション

- ・講義目標の設定
 - ・展開部分→導入部分→まとめの方法
 - ・時間配分の妥当性

研修テーマ	Goldmann 視野検査					
グループ	メンバー	B	人数	5	教員歴	1~3 年

学習指導案（コマシラバス）

科目名	視覚生理学	講師名		日/時間		90 分×2		
対象学生	2 年	人数	20 名	授業形態	実習			
科目目標			講義目標	準備物				
正常視野を測定できるようにする	適切な測定準備（機器・患者）、正常視野			GP 5 台、ガーゼ、遮蔽テープ、GP 用紙				
時間/段階	講義内容							
時間	指導内容・指導方法				留意点			
導入 45 分	デモンストレーション (前回までの講義内容を踏まえた上で、実際にやってみせる) ① 測定条件の設定 ② 患者の準備 ③ 測定方法 ④ 記載方法							
展開 120 分	GP 5 台使用し、実習を行う ① グループ内で考えながら、測定条件の設定をおこなう（20 分） ② 1 人 1 人患者準備をおこない、V/4e イソプターを測定する（1 人 25 分） 教員は巡回しながら確認し、適宜指導をおこなう							
まとめ 15 分	とるべき場所がとれているか (経線はさむ 2 点、30° 間隔) 記載漏れがないか 凹みに対しての再検 学生全体にフィードバック、再確認							

研修テーマ	Goldmann 視野検査実習					
グループ	メンバー	D	人数	5名	教員歴	

学習指導案（コマシラバス）

科目名	視能検査学 I 実習	講師名		日/時間	前期	90 分×2		
対象学生	2年生	人数	12名	授業形態	演習を含む実習			
科目目標	講義目標			準備物				
ゴールドマン視野計の検査法を理解し、習得する	ゴールドマン視野計の検査前準備ができる			電球・照度計・ガーゼ・サージカルテープ・記録用紙				
時間/段階	講義内容							
時間	指導内容・指導方法			留意点				
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・記録用紙の入れ方 (実際に記録用紙を見せながら、正しい入れ方を説明する。) ・輝度調整 (電球の取り扱い) (アームのロックの仕方を教える。背景輝度と視標輝度のキャリブレーションを調整する。輝度が 1000asb に達しない時の電球の交換方法を教える。) →教員が模範的な手技を示し演習した後、学生同士で実習 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 照度計は明るいところに置きっぱなしにせず、丁寧に扱う。 ・ 電球に直接さわらない。(手袋をさせる) ・ 視野計と電球のメーカーを合わせる。 ・ 定期的に電球の位置を 180° 変える。 ・ 輝度調整用ノブを最大に回さない。 				
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・光学台、顎台の調整 (顎・頭部を固定し、椅子や光学台・顎台の高さなど楽な姿勢になるように調整方法を教える。) ・被検者への説明 ・遮閉、眼瞼挙上の仕方 (テープを無駄なく効果的にはる方法を考えさせる。夏休みの課題として、両親・祖父母を対象に眼瞼挙上の練習をする。) ・アームの動かし方 →教員が模範的な手技を示し演習した後、学生同士で実習 			<ul style="list-style-type: none"> ・顎台に顔をのせる前に、光学台の高さを合わせる。顎台は測定眼に合わせて水平も動かす。 ・水平、垂直移動用ノブは大きく回しそぎない。 ・無理な姿勢で検査をすると、結果に影響することを教える。 ・遮閉眼の瞬きができるか確認させる。 				

展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片付け（説明のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アームを記録用紙の下部の矢印にそって、適切なスピードでまわす ・ 展示した視標のドーム内の位置を確認させる
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査前の準備を完全にマスターし、次回 V/4 のイソプターが測定できるようアームの動かし方を習得する 	

研修テーマ	Goldmann 視野検査実習					
グループ	メンバー	F	人数	6	教員歴	3~14 年目

学習指導案（コマシバス）

科目名	視能検査学実習	講師名	担当者	日/時間	5月 頃	90 分×2					
対象学生	2年前期 (大学3年前 期)	人数	9	授業形態	実習						
科目目標		講義目標		準備物							
解剖・視覚臨床生理学の基礎的な知識を元にして、臨床技術を習得する。		(1)セッティング・正しい動かし方 (2)V/4 を取れる (3)関係する用語を覚える (4)患者様の準備 (5)患者様への説明を考える		Goldmann 視野計・ガーゼ・テープ・鉛筆・講義ノート・実習資料・メモ帳・アルコール綿・記録用紙・チェックシート							
時間/段階	講義内容										
時間	指導内容・指導方法		留意点								
導入	(1)セッティング・正しい動かし方 (2)V/4 を取れる (3)関係する用語を覚える (4)患者様の準備 (5)患者様への説明を考える										
展開	3人1組で、3グループ（計9名）を一人の教員が実習指導する。 ・検者　・被検者　・観察者 (1コマ目) 最低限の注意事項 部屋と機械のセッティング 器具の意味等		やつてはいけないことを最初に話す (ドームを汚さない、危険性があること、機械を丁寧に扱うこと) 患者様への説明は、学生に考えさせる。								

展開	<p>(2コマ目)</p> <p>患者様の準備 測定時の留意点 V/4をとつてみる</p>	観察者はチェックシートにしたがってチェックする。
まとめ	<p>到達目標に対する自己評価 次回までの課題を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器の説明用紙を次回テスト ・2回目は実習準備段階でセッティングを行うこと ・患者様への説明を考えてくる 	各項目10点満点で、実習最後に提出させる

Goldmann視野検査

グループB

科目名:視覚生理学

時間:90分×2

対象学生:2年生(4年制)

人数:20人

授業形態:実習

科目目標:正常視野をとれるようになる

講義目標:適切な測定準備(機器・患者)

正常視野V/4測定

準備物:GP5台、ガーゼ、遮閉用テープ

導入(45分)

- 測定条件設定
水準器、測定用紙のセット、接線距離、背景輝度(電球の交換も)
- 患者の準備
検査説明、遮閉方法、眼鏡挙上、台・椅子の高さ
- 測定方法
視標の選択、固視觀察
提示方法(シャッター、速度、動かし方)
- 記載方法

上記項目は講義済みの条件で教員がデモンストレーションする

展開(120分)

4人1組に分かれ実習を開始

- グループごとに機器の設定を行う(20分)
- 検者と被検者に分かれ測定する(25分×4)

教員は巡回しながら個別に指導していく

まとめ(15分)

- 巡回中にまちがいの多かった点を全体に向けて再度指導する

例:固視の監視、アーム操作、プロットの仕方
視標の速度、記載方法 等

Goldmann視野 検査実習

D班:

講義設定

- ・科目名: 視能検査学実習 I
- ・日程: 前期
- ・時間: 90分 × 2コマ
- ・対象学年: 2年生
- ・学生人数: 12名
- ・教員人数: 1名
- ・授業形態: 演習を含む実習

科目目標

ゴールドマン視野計の検査法を理解し、習得する

講義目標

ゴールドマン視野計の検査前準備ができる

- ①水準器
- ②記録用紙の入れ方
- ③輝度調整(電球の取り扱い)
- ④光学台や頸台の調整
- ⑤被検者への説明
- ⑥遮閉と眼瞼挙上の方法
- ⑦アームの動かし方

準備物

- ・電球
- ・照度計
- ・ガーゼ
- ・サージカルテープ
- ・記録用紙

導入

<検査前の機器準備>

- ①記録用紙の入れ方
- ②輝度調整(電球の取り扱い)

→ 教員が模範的な手技を示し、演習をおこなう
学生同士で実習

輝度調整(電球の取り扱い)の留意点

- ・照度計は明るいところに置きっぱなしにしない。丁寧に扱う。
- ・電球に直接さわらない。電球をさわる時は、手袋をさせる。
- ・視野計と電球のメーカーを合わせる。
- ・定期的に電球の位置を180°変える。
- ・輝度調整用ノブを最大に回さない。

展開1

- ①顎、頭部の固定
- ②椅子、光学台、顎台の高さの調整
- ③検査説明の仕方

→ 教員が模範的な手技を示し、演習をおこなう
学生同士で実習

留意点

- ・顎台に顎をのせる前に、光学台の高さを大体合わせる。
- ・水平、垂直移動用ノブは大きく回しすぎない。
- ・無理な姿勢で検査をすると、結果に影響を及ぼすことを教える。

展開2

- ④遮閉と眼鏡挙上の仕方
サージカルテープを無駄なく効果的にはる方法を考えさせる。
夏休みの宿題として、両親・祖父母を対象に眼鏡挙上をし、テレビを30分見てもらう課題を出す。
- ⑤アームの動かし方
→ 教員が模範的な手技を示し、演習をおこなう
- ⑥片付け(説明のみ)

留意点

- ・遮閉眼が瞬きできるように、遮閉する。
- ・アームを記録用紙下部の矢印にそって、適切なスピードでまわす。
- ・呈示した視標のドーム内での位置を確認する。

まとめ

検査前の準備を完全にマスターし、
次回V/4のインプターを測定できる
ようにアームの動かし方を習得する



第2回教員研修会

(実習計画グループ)

前提

- ④ 講義の進行状況
 - 解剖・視覚臨床生理学の基礎的な知識は終わっている
- ⑤ 学年
 - 専門学校の2年前期
 - 大学の3年初期
- ⑥ 実習の回数
 - 1回(40分×2コマ)を半間6回
 - 今回は、1回目を想定

科目の目標

- 解剖・視覚臨床生理学の基礎的な知識を元にして、臨床技術を習得する。

到達目標

1. セッティング・正しい動かし方
 - 2回目の実習はセッティングを自分たちで
2. V/4を取れる
3. 関係する用語を覚える
4. 患者様の準備ができる
5. 患者様への説明を考える

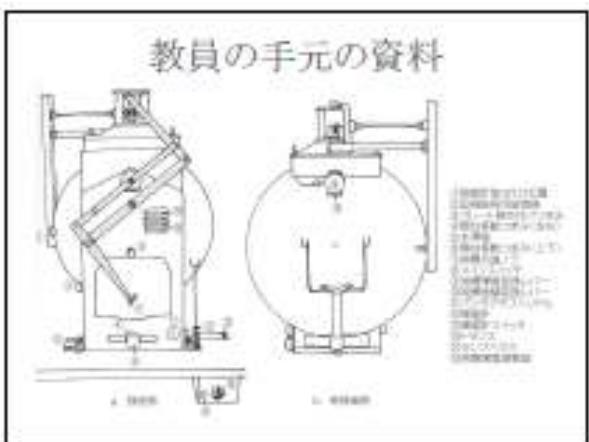
実習概要

3人1組で、3グループ(計9名)を一人の教員が実習指導する。

内容	
1コマ目	最低限の注意事項 部屋と機械のセッティング 器具の意味等
2コマ目	患者様の準備 測定時の留意点 V/4を取ってみる

最初に...

- ドームを汚さない
- 危険性について
 - 固視灯とアームと電球
- 器械を丁寧に扱う



名称・セッティング1

- 暗室
- 水準器
- 傾度調整
- 機械台の調整
- 頸台の調整

名称・セッティング2

- 用紙の固定
- 光源調整ノブ
- 応答ボタン
- 開閉シャッター
- アームの動き方
- 水平・垂直経線を挟む
- フィルターの詳細は2回目で

患者様の準備

- 眼鏡挙上
- ガーゼの使い方
 - 切断・アーブの張り方
 - 検査の邪魔にならない
 - 不快にさせない
- 髪型について
- 最低限の説明事項

視標の出し方について

- 順序
- 視標スピード
- シャッターの使い方
- 再検査について

チェックシート内容

- 最初に光を提示する位置(正常視野より外)
- 眼鏡を挟んでいるか
- 横のスリット部分を避けているか
- 視標のスピードは適切か(意識付け)
- プロットの量・プロットの位置
- 固視の監視
- 空欄で説明の仕方を作成しておく
- 次回につなげる。「本日の気づき」

チェックシート実物



到達目標は達成できたか？ 自己評価(各項目10点満点)

1. セッティング・正しい動かし方
2. V/4を取れる
3. 関係する用語を覚える
4. 患者様の準備ができる
5. 患者様への説明を考える

課題

- 機器の説明用紙を次回テスト
- 2回目は実習準備段階でセッティングを行うこと
- 患者様への説明を考えてくる

CQOCO

研修参加者へのアンケート

- 筆記器具は？
- チェックは右下？左下？
- 遮蔽の方法

CQOCO

最終ディスカッション

2つのテーマに対する各グループの教案発表を受け、テーマごとのまとめをおこなった

<弱視総論分野>

- 導入時間が長すぎるという指摘に対して。

どこまでを導入とするのかが難しいが、今回は導入部分に展開の内容が含まれていたため長くなってしまった。また、授業の目的や内容によっても変わると思うが、今回の内容（弱視総論の初回授業）では15～20分が適当ではないかという意見でまとまった。

- 学生に発表させる（答えさせる）のは難しいのではないか？という意見に対して。

発表する、答えさせることは必要であるので、発表させるための工夫を話し合った。

- 間違った答えに対してはもう1度説明し何が間違っているのかを伝える。
- 間違えても恥ずかしいことではないことを日頃から伝えていく。
- 間違えた答えであっても頭から否定しない。
- 答えられない人は飛ばして次の人に指す。⇒ 逆に人前で話す、発表することは必要な事なので発表は人前で話すトレーニングだと考え、答えられなくてもすぐに飛ばすのではなくヒントを与えるながら5分程度待つという意見もあった。
- 周りの人と相談する時間を作る。
- 点数をあげると伝える。など 様々な意見がでた。

- 定義など学生が取扱かりにくい部分はどう興味を持たせながら授業を進めていくか？

最初に「定義は・・」と、伝えてしまうと学生は言葉を一言一句覚えてしまうだけになってしまう。公式にしても同じである。そうすると使えない知識になってしまないので、そこに行くまでの背景や歴史を話したり、定義の意味を伝えたりすることが大切ではないかという意見が出た。

<ゴールドマン視野計分野>

- ゴールドマン視野計の実習グループの人数が指導者数は、学校によって条件も異なるため、統一するのは難しいのではないか。

- チェックは何で行うか。鉛筆か色鉛筆か。

以前医師に「赤青鉛筆は視能訓練士にとっては見やすいかもしれないが、医師にとっては見にくい。」と、言われたことがある。

学生を指導するなかで最初慣れないいうちは赤青鉛筆を使うのは一つの手だと思うが最終的には1色がよいのではないか。

- 遮閉の仕方は各施設にあわせてよいと思う。

- 使用した視標のチェックの向き（右下がりか右上がりか？）

関東、関西では考え方の差もあるようだ。調和現象の意味を理解していればどちらでもいいのではないか？

<最終ディスカッションの発表を受けて：意見>

(平井先生)

実習や知識に関して、学外実習に出た時に問題となることが多いが、実習先で検査の進め方などが学校や実習先同士でも違っていることがある。

学校で「これはこうだ！！」と教えてしまうと実習先で学生が「学校ではこう習いました！！」と言ってしまうことがある。学生には柔軟な姿勢や場の空気を読む大事さ、その実習先でのやり方などすべてを学ぶという事を伝えることが必要ではないか。

(松井先生)

確かにそういう問題はしばしばみられる。視力の記載法やG Pの記載法なども色々あるので、「こういった記載法があるよ、こういった方法で行っている施設もあるよ。」と様々な事を伝えることが大切ではないか。

研修風景

教育講演



グループワーク

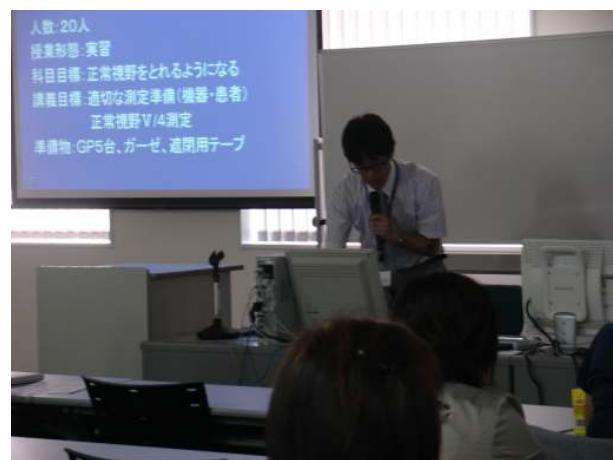




懇親会



成果発表



集合写真



アンケート結果

第2回 日本視能訓練士養成施設連絡協議会 教員研修会 アンケート

養成施設連絡協議会教員研修ワーキンググループ

平成21年8月28日

第2回教員研修会へご参加いただきありがとうございました。

本研修会をよりよいものにしていくため、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記の設問にお答えください。

◇ 教員歴 (年 ヶ月)

◇ 視能訓練士歴 (年 ヶ月)

1. 研修会の運営について

- ・ 開催日の設定 (よい よくない どちらともいえない)
よくないとすれば、いつ頃がよいでしょうか ()
- ・ 全体の目的 (よい よくない どちらともいえない)
よくないとすれば、その理由をご記入ください
()
- ・ 全体タイムスケジュール (よい よくない どちらともいえない)

2. 教員研修全体のプログラム構成について

- ・ 教育講演 (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
今後教育講演聴きたい内容があれば書いてください
()
- ・ 懇親会 (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)
- ・ グループワークの実施 (あったほうがよい 不要である どちらともいえない)

3. グループワークについて

- ① テーマはよかったです (よい よくない どちらともいえない)
- ② 時間配分は適切だったか (適切である 長い 短い どちらともいえない)
- ③ グループ討議は有効だったか
(有効だった 無駄であった どちらともいえない)
- ④ 個々の発表時間 (適切である 長い 短い どちらともいえない)
- ⑤ 質疑応答時間 (適切である 長い 短い どちらともいえない)
- ⑥ グループ人数 (多い 少ない どちらともいえない)
- ⑦ その他意見 (グループワークについて)

4. プログラム（要綱）内容について (よい よくない どちらともいえない)

5. 事前アンケートについて

① 時期 (適切 不適切 どちらともいえない)

② 内容 (適切 不適切 どちらともいえない)

6. その他 研修会運営に関するご意見

7. 研修会は教育活動の参考になった (なった ならない どちらともいえない)

8. また研修会に参加したいと思いますか

(思う 思わない どちらともいえない)

9. 研修会全体に対するご意見

10. 次回、取り上げてほしいテーマなどございましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

~~~~~

~

最後に・・・

研修会に対するご意見とは別に、今回の研修を振り返って、ご自身の感想などをお聞かせください

ありがとうございました



## アンケート単純集計

|                                | 設問                | 回答            |             |                 |                | 合計数 |
|--------------------------------|-------------------|---------------|-------------|-----------------|----------------|-----|
| 研修会の運営                         | 開催日の設定            | よい<br>23      | よくない<br>0   | どちらともいえない<br>6  | 無回答            | 29  |
|                                | 全体の目的             | よい<br>28      | よくない<br>0   | どちらともいえない<br>0  | 無回答<br>1       | 29  |
|                                | 全体タイム<br>スケジュール   | よい<br>27      | よくない<br>1   | どちらともいえない<br>1  | 無回答            | 29  |
| 教員研修全体<br>の<br>プログラム構成<br>について | 教育講演              | あつた方がよい<br>27 | 不要である<br>1  | どちらともいえない<br>1  |                | 29  |
|                                | 懇親会               | あつた方がよい<br>27 | 不要である<br>1  | どちらともいえない<br>1  |                | 29  |
|                                | グループワークの<br>実施    | あつた方がよい<br>29 | 不要である<br>0  | どちらともいえない<br>0  |                | 29  |
| グループワークに<br>について               | テーマは<br>よかったです    | よい<br>28      | よくない        | どちらともいえない<br>1  |                | 29  |
|                                | 時間配分は<br>適切だったか   | 適切である<br>27   | 長い<br>1     | 短い<br>1         | どちらともいえない<br>2 | 29  |
|                                | グループ討議は<br>有効だつかか | 有効だった<br>28   | 無駄であった<br>0 | どちらともいえない<br>1  |                | 29  |
|                                | 個々の<br>発表時間       | 適切である<br>29   | 長い<br>0     | 短い<br>0         | どちらともいえない<br>0 | 29  |
|                                | 質疑応答時間            | 適切である<br>24   | 長い<br>3     | 短い<br>1         | どちらともいえない<br>1 | 29  |
|                                | グループ人数            | 多い<br>2       | 少ない<br>0    | どちらともいえない<br>24 | 適切<br>3        | 29  |
| プログラム<br>内容について                |                   | よい<br>27      | よくない<br>0   | どちらともいえない<br>2  |                | 29  |
| 事前アナウンス<br>について                | 時期                | 適切<br>26      | 不適切<br>1    | どちらともいえない<br>2  |                | 29  |
|                                | 内容                | 適切<br>26      | 不適切<br>0    | どちらともいえない<br>3  |                | 29  |
| 教育活動の<br>参考になったか               |                   | なった<br>29     | ならない<br>0   | どちらともいえない<br>0  |                | 29  |
| また参加したい<br>と思うか                |                   | 思う<br>28      | 思わない<br>0   | どちらともいえない<br>1  |                | 29  |

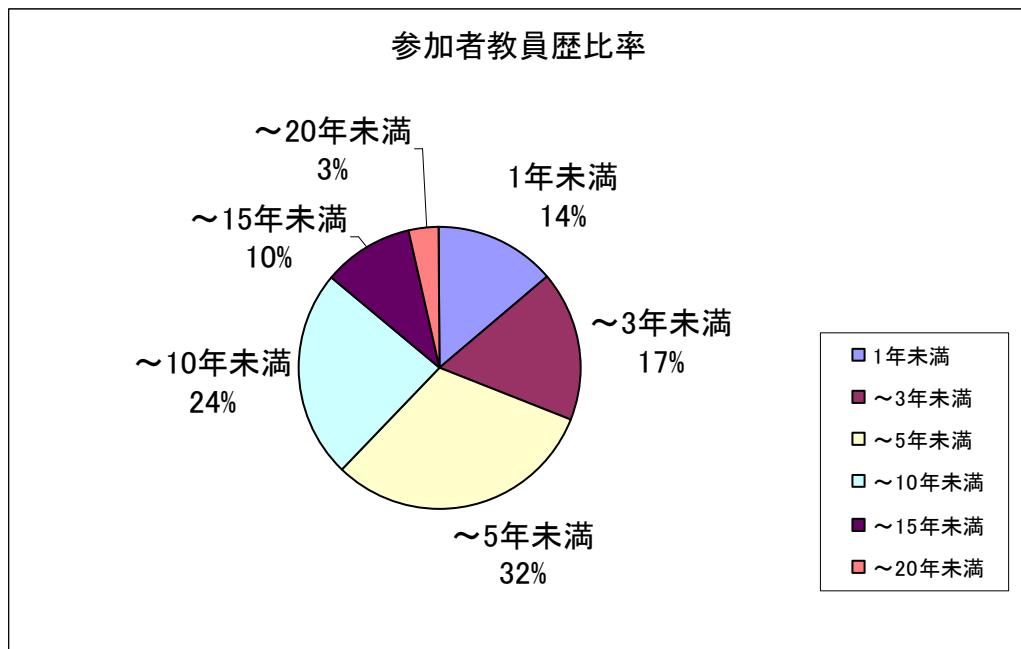
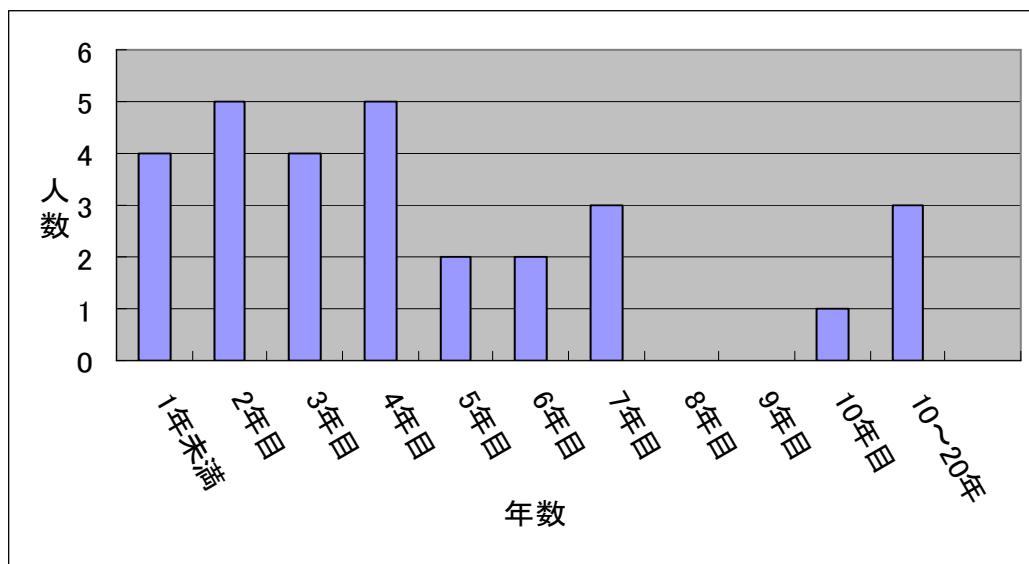
## 第二回教員研修会 アンケート結果

平成 21 年 8 月 27・28 日

研修参加者数 31 名（全日程通りに参加者 29 名）

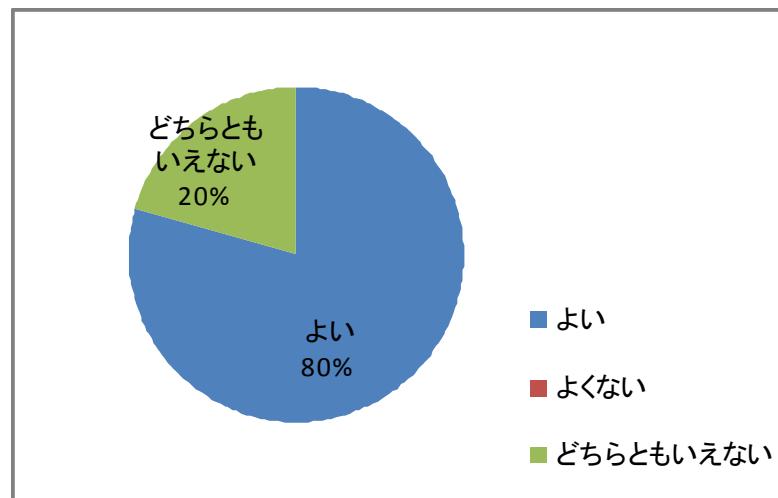
アンケート回答者数 29 名（93.5%）

### 参加者教員歴

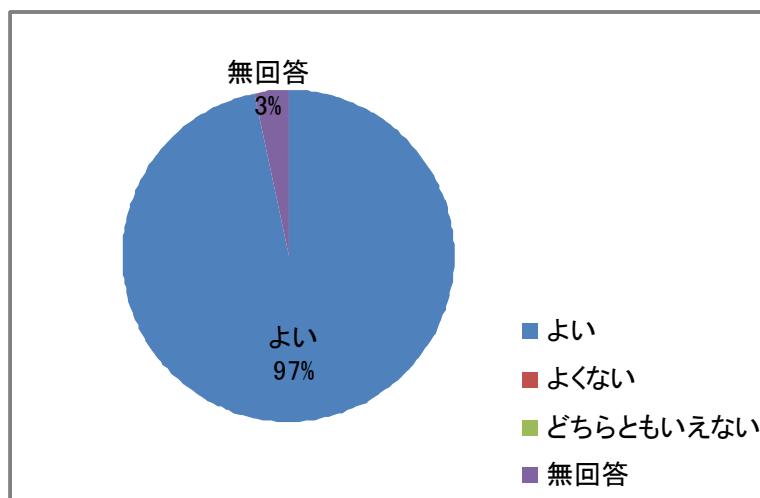


## 1. 研修会の運営について

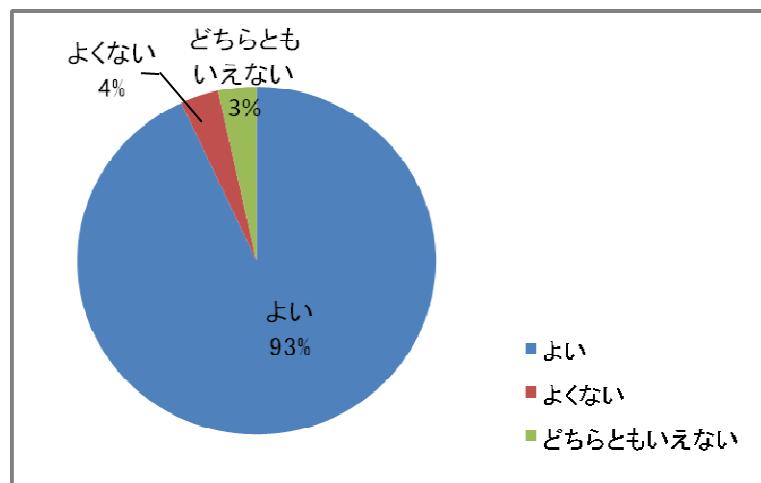
- ・ 開催日の設定



- ・ 全体の目的

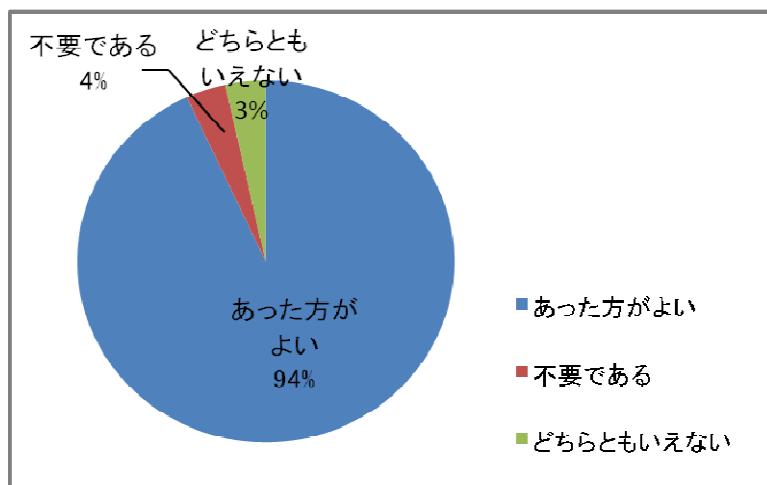


- ・ 全体タイムスケジュール

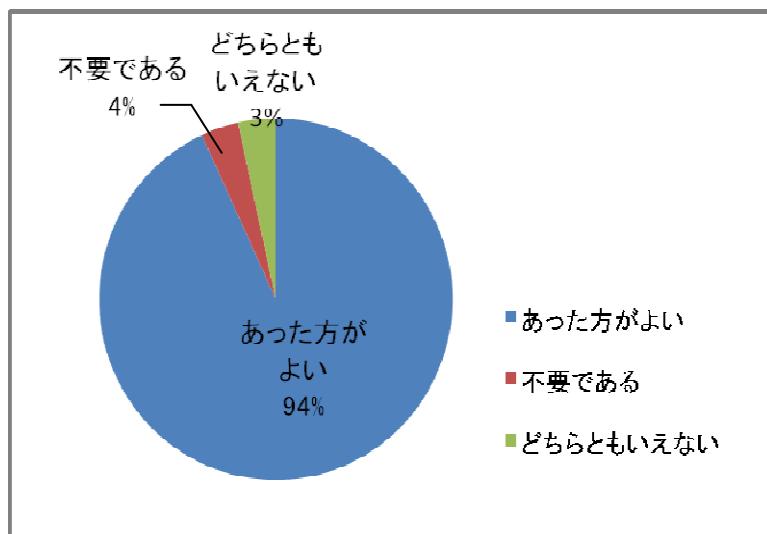


## 2. 教員研修全体のプログラム構成について

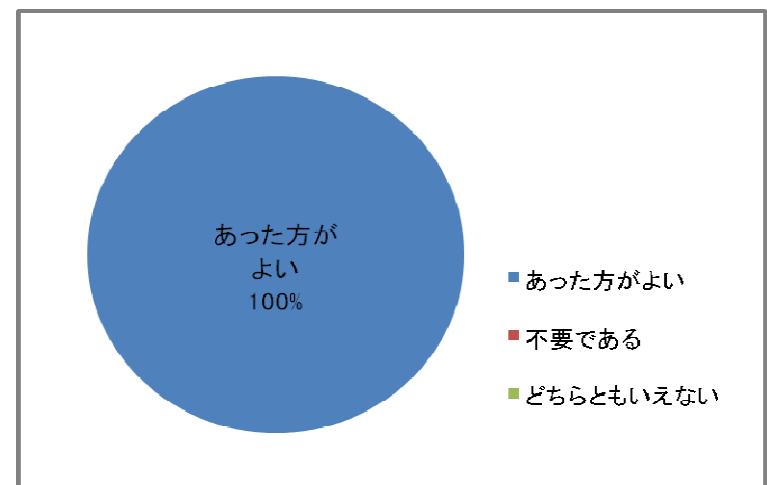
- 教育講演



- 懇親会

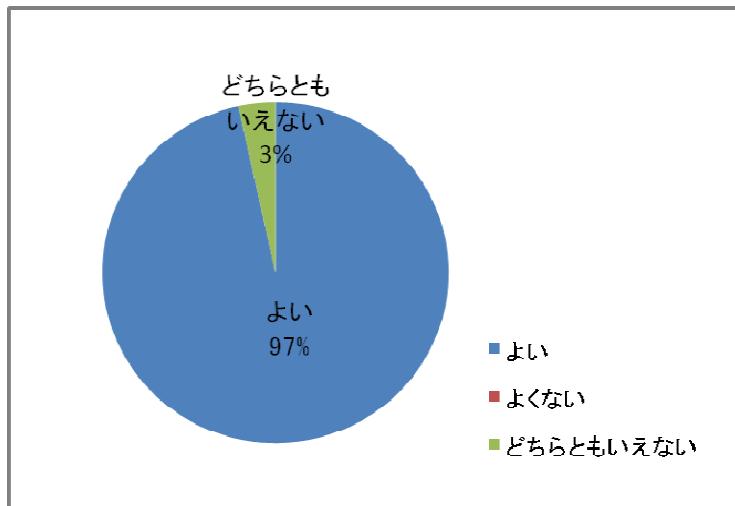


- グループワークの実施

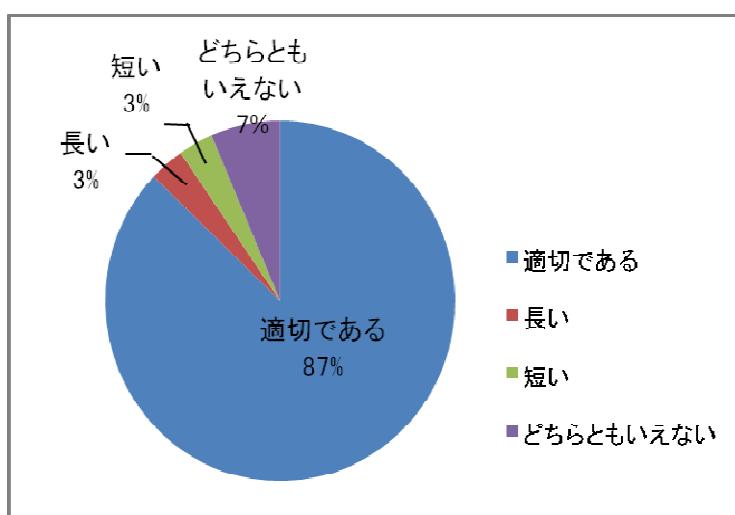


### 3. グループワークについて

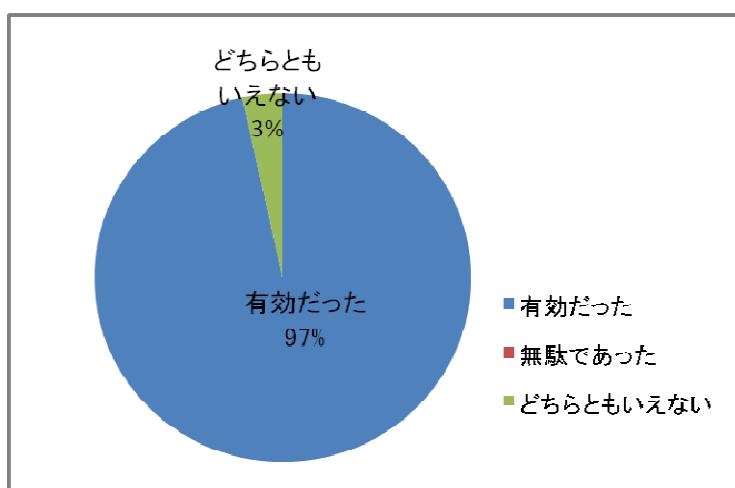
- ・ テーマはよかったです



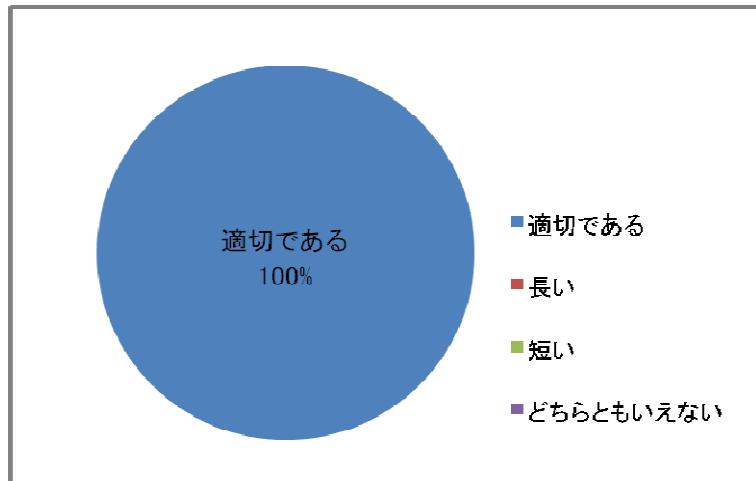
- ・ 時間配分は適切だったか



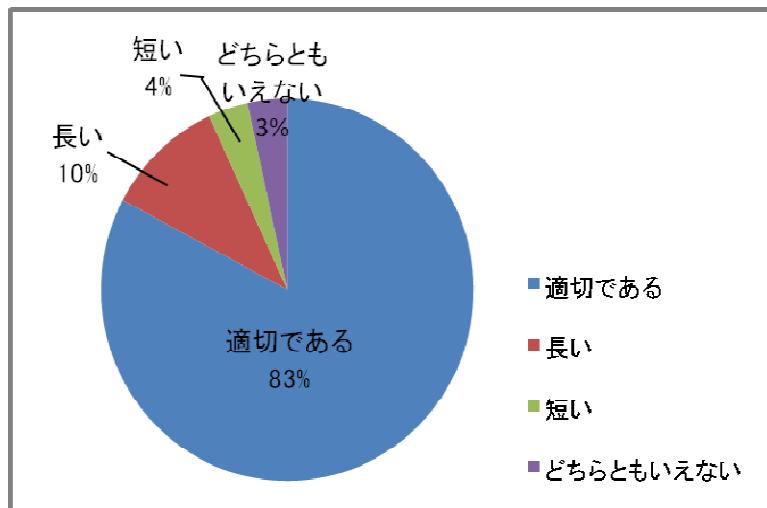
- ・ グループ討議は有効だったか



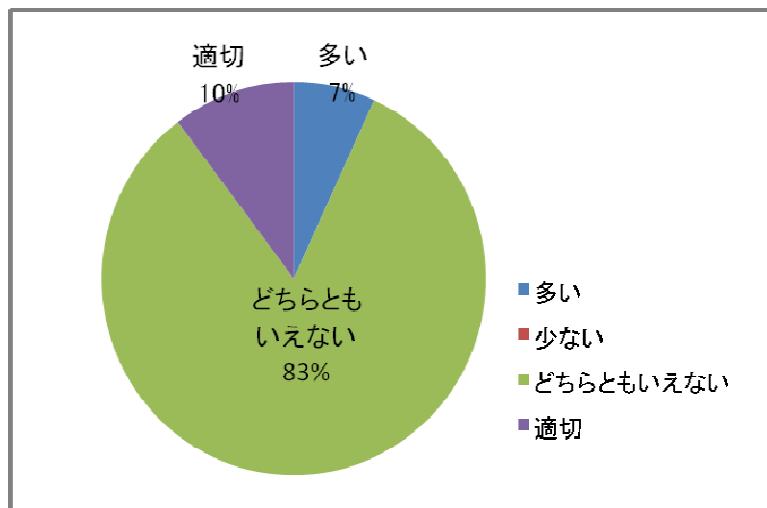
- ・ 個々の発表時間



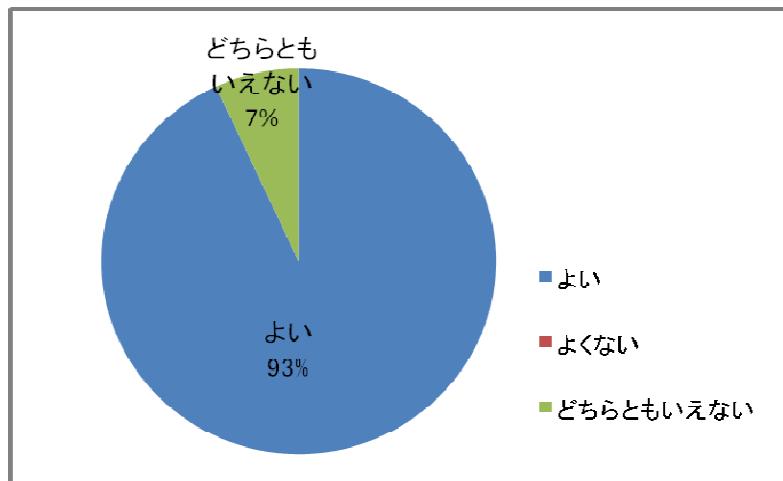
- ・ 質疑応答時間



- ・ グループ人数

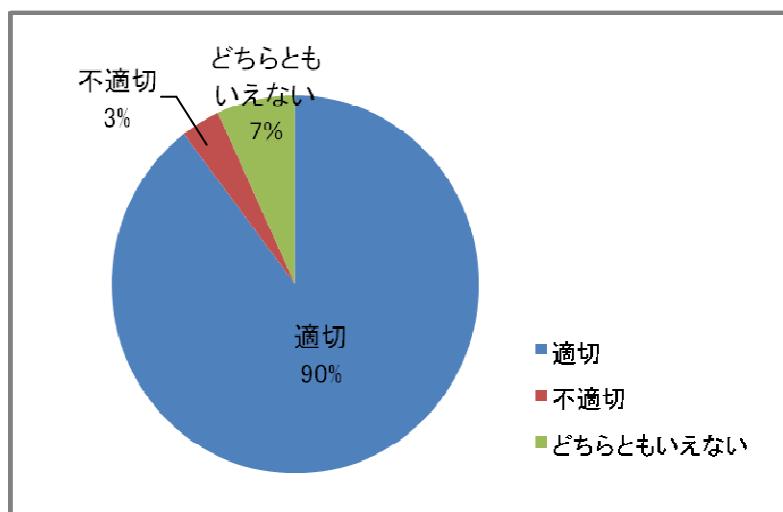


#### 4. プログラム内容について

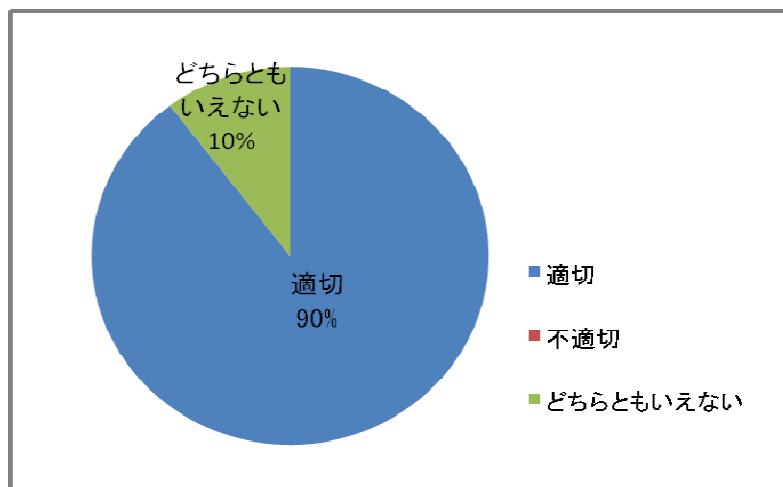


#### 5. 事前アナウンスについて

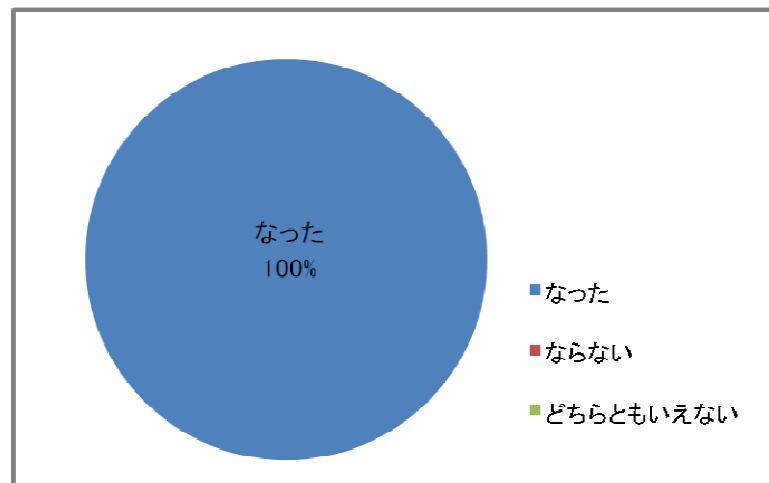
- ・ 時期



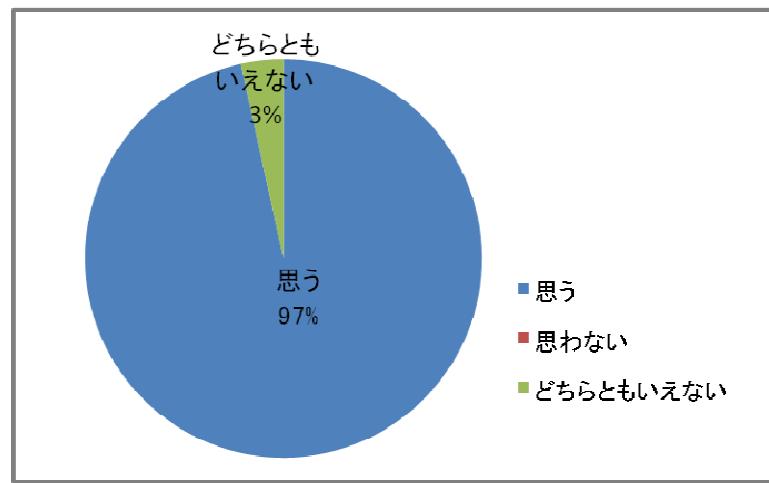
- ・ 内容



7. 研修会は教育活動の参考になったか



8. また研修会に参加したいと思うか



## 意見・感想

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループワークについて | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークによる個々の教員のスキルアップもよいが、多くの教員が集まる機会なので、生産的な目標があるとより意味のある会になると思う。</li> <li>・最後のまとめのグループワークの時間が短かった</li> <li>・再ディスカッションの前に各グループで意見を一度まとめると再ディスカッションがより充実したのではないか。</li> <li>・経験者が多い班は早く終わる傾向にあったように思う。</li> <li>・事前に自分が何のテーマに当たるのか分かれば事前に資料を調べやすい。</li> <li>・中間発表のようなものがあると、2日目の発表までに修正が出来てよいと思う。</li> <li>・テーマをもう少し絞ったほうがよいと思う。</li> <li>・それぞれの意見を気楽に話せる場でとてもよいと思う。</li> <li>・教員歴が同じ人ばかりでとても意見が言いやすく、楽しんでグループワークが行えた。</li> <li>・話し合いをしながら、パワーポイントとコマシラバスを完成させる作業では、グループにコンピューターに慣れている人がいるのといいのでは無いぶん違うのではないか。</li> </ul> |
| 研修会運営について   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みでも学生は出てきているので、開催を土日でしてもらったほうが参加しやすい</li> <li>・夏休みが終わり、新学期が始まっている学校もあったので、もう少し早い時期に行ってもいいのではないか。</li> <li>・専門用語の統一を行ってほしい</li> <li>・事前アナウンスは開催日1ヶ月前位に送ってほしい</li> <li>・運営担当の大学の先生方がとても大変だったのでは？参加者としてはありがたいが、偏った負担にならないほうが長く続けられるのではないか。</li> <li>・教科書などがあり、とてもグループワークが行いやすかった。</li> <li>・開催場所までのアクセス方法をもう少し詳しく記載してほしかった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                     |
| 研修会全体について   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会と異なりゆったりとした配分がありがたい。</li> <li>・貸していただいたパソコンのユーザー アカウントがたくさんあったので、どれを使えばいいかアナウンスがあると助かった。</li> <li>・スケジュール通りにスムーズに進行したためよかったです。</li> <li>・修了証はまとめて代表者がもらってもいいのではないか。</li> <li>・この形式で継続してほしい。（教育講演＋WG プログラムの形式）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 取り上げてほしいテーマ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他業種（ソーシャルワーカー、コメディカル、教育関係者、メーカー等）との連携のモデルケースの紹介や成功例、共同研究例などを取り上げてほしい。</li> <li>・社会の中での視能訓練士の役割について改めて検討し、学生に啓蒙できる知識を広げたい。</li> <li>・学習評価の方法について</li> <li>・コーチング（特にメンタルコーチングの技術）</li> <li>・もう少し同じようなことを続け、誰もが上手にコマシラバスを作成できるようになってほしい</li> <li>・教案、コマシラバス作成はこのまま続けてほしい。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         |

|                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取り上げてほしい<br>テーマ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・屈折矯正</li> <li>・GP</li> <li>・眼球運動(検査)</li> <li>・眼位</li> <li>・両眼視機能</li> <li>・斜視検査</li> <li>・視力検査</li> <li>・研究発表、論文の書き方についての指導</li> <li>・斜視、弱視の訓練</li> <li>・OSCE</li> <li>・電気生理学</li> <li>・調節検査</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 講演で聴きたい<br>テーマ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今(現代)の学校教育について</li> <li>・教育 効果的な指導法について</li> <li>・教育者としての資質、心得、人格的なものなど</li> <li>・教育学</li> <li>・学習評価の方法論 特に情意領域、精神運動領域について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 感想              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・養成校の教員同士が集まる機会はほとんどないのでよい機会だった。</li> <li>・他校の先生方も同じ悩みを抱えていることを知り共感することも多く楽しかった。</li> <li>・今回初めての参加で不安だったが他校の教員の考え方や指導法を聞きとても勉強になった。</li> <li>・参加してよかったです。もっと多くの人が参加してほしい。<br/>もっとPRをたくさんした方がよいと思う。</li> <li>・ゴールドマンの記載方法など、色々な手技があつてもよいという話だったが、できれば今後統一してほしい。</li> <li>・教員歴が短いので先生方の話が大変勉強になる。</li> <li>・他校の先生方の意見を聞くことが出来、とても参考になった。</li> <li>・授業計画をたてる上で非常に参考になった。</li> <li>・同じテーマであつても様々な導入や流れがあることが勉強できた。</li> <li>・自身の学習指導の見直し、改善につながると思う。</li> <li>・同じテーマであつても視点や形式が違い、経験の差でこうも違うのかと驚いた。</li> <li>・専任教員の単位認定に早く認めてほしい。参加者の増加にもつながると思う。</li> <li>・1日目の研修は和やかな雰囲気だったが、2日目は指導者としてのするどい視線の中、とても緊張感のある時間だった。しかし、どの意見も貴重なものばかりで今後の授業作りに活用したいと思う。</li> <li>・現代の学生の状況がよく分かった。本校の学生に当てはまるものもあった。</li> </ul> |

## 会長総評

教員の資質向上と教育指導内容の充実を図ることを目的に、昨年度から始まった教員研修会ですが、皆様のご協力により、今年度も昨年に劣らない充実した内容の研修会となり、盛会のうちに無事終了することができました。第2回ということもあり、計画や事前の準備は比較的順調に進み、今回も、ベテラン教員から経験年数の少ない若手教員に至るまで全国から多数の方々にご参加いただきました。学生募集を始めとする様々な学校行事でお忙しい中、教員の研修会への派遣に快く応じていただきました養成施設の関係各位には、この場を借りて謹んで御礼申し上げます。

今回の研修会では、国際医療福祉大学大学院臨床心理学専攻の小林真理子先生に「青年期のメンタルヘルス」と題して、気になる学生への対処法を含めて教育講演をご担当いただきました。様々な心の悩みを抱え、コミュニケーション能力の不足や精神的脆さも指摘されている現代の学生にどのように向き合っていくかは、教員として大きな関心事であり、大変タイムリーな内容で、今後、様々な場面で大いに参考となるものでした。昨年好評であったグループワーク研修では、今年度も「弱視総論」、「Goldmann 視野検査」という基本的なテーマの中から選定し、各々3班に分かれて、具体的な授業教案を作成していただきました。他施設での様々なアイデアや工夫を知ることができることは、経験年数の浅い教員にはもちろんのこと、ベテラン教員にとっても自らの指導法を顧みる上で大変参考になっています。また新たな試みとして、今年度は各班の発表のあとで、テーマ別に総合討論の時間を設け活発な質疑応答を期待しましたが、時間配分や進行の点で、改善すべき点が残されていると感じました。形骸化を避けるためにも参加者のアンケート集計や個別の意見・要望を基に、次年度の研修会に十分反映していただきたいと思います。

我々教員の目指す目標は臨床で真に役立つ人材の育成ですが、景気の悪化に伴う志願者の偏重や眼科医療への影響、新たな視能訓練士養成課程の誕生など、視能訓練士教育を取り巻く状況は刻々と変化しております。学生の基礎学力や質の変化のみならず、眼科医療の高度専門化に対応するため、教育内容や指導項目は増加の一途にあり、教員には高い指導力が求められ、負担も増加しています。限られた時間の中でどこに重点を置き、どの段階で何をどこまで身につけさせたらよいか、教員サイドでは常に試行錯誤が続いています。このため、本協議会では今後の視能訓練士の卒前教育において重要な位置づけとなる実習ガイドラインの作成に着手いたしました。協会の卒後教育制度と連携を図ることに加え、現場の実習指導者のご意見やご要望を取り入れ、少しづつではありますが整備を進め、視能訓練士の質の向上に寄与できることを願っております。

今後の教員研修会の方向性としては、賛助会員によるセミナーなどの新たな企画や協会の単位認定事業への申請を通じて、益々充実した研修および意見交換の場として、より多くの方々にご参加いただき、活性化していくことが本協議会の使命と考えております。

最後になりますが、企画から開催準備、報告書の取りまとめに至るまで、ご尽力いただいた教員研修ワーキンググループの諸氏にあらためて深謝申し上げます。

日本視能訓練士養成施設連絡協議会

会長 新井田 孝裕

~~~~~

編集後記

第2回教員研修会は、第1回の形態を踏襲しておこないました。教育講演では、問題を抱える学生への対応について、短時間ではありましたが小林先生にお話していただきました。学生相談の現状とその内容、また事例も提示していただき、心の病や発達障害について、いろいろと学ぶことがあったのではないかでしょうか。

グループワークでは、今回、プレゼン終了後に、テーマ毎の最終ディスカッションを行っていただきました。活発な討論があり、時間がまったく足りなかつたことはワーキンググループ一同準備不足であったと大変申し訳なく思っております。この点につきましては特に力を入れて、次年度以降改善していきたいと考えております。短い時間ではありますが、各施設での差異などが明らかとなり、方法のみならず、用語や記載法など、新人グループにとっても、経験を重ねたグループにとっても、各個人が感じていた宿題のようなものが見えてきたように思われました。

今回の教員研修会を通して、今後の視能訓練士養成教育において少しでもお役に立てることがあったのであれば有り難いと思っております。

この教員研修会も次回で第3回となります。回を重ねることで対外的に認められていくこととなります。ご参加のみな様からのアンケート結果を踏まえ、第3回の教員研修会がより充実したものにできるよう、ワーキンググループ一同力を合わせて努力いたしますので、何卒みなさまのご協力をいただけますようお願い申し上げます。

~~~~~

## 日本視能訓練士養成施設連絡協議会 加盟校一覧

|    | 施設名                 | 学科名                             | 所在地      |
|----|---------------------|---------------------------------|----------|
| 1  | 吉田学園医療歯科専門学校        | 視能訓練学科                          | 北海道札幌市   |
| 2  | 北海道ハイテクノロジー専門学校     | 視能訓練士学科                         | 北海道恵庭市   |
| 3  | 東北文化学園専門学校          | 視能訓練士科                          | 宮城県仙台市   |
| 4  | 東北文化学園大学            | 医療福祉学部リハビリテーション<br>学科視覚機能学専攻    | 宮城県仙台市   |
| 5  | 新潟医療技術専門学校          | 視能訓練士科                          | 新潟県新潟市   |
| 6  | 国際医療福祉大学            | 保健医療学部視機能療法学科                   | 栃木県大田原市  |
| 7  | 日本医科学衛生福祉専門学校       | 視能訓練士科                          | 埼玉県越谷市   |
| 8  | 帝京大学                | 医療技術学部視能矯正学科                    | 東京都板橋区   |
| 9  | 東京医薬専門学校            | 視能訓練士科                          | 東京都江戸川区  |
| 10 | 北里大学                | 医療衛生学部リハビリテーション<br>学科視覚機能療法学科専攻 | 神奈川県相模原市 |
| 11 | 平成医療専門学院            | 視能訓練学科視能訓練科                     | 岐阜県岐阜市   |
| 12 | 東海医療科学専門学校          | 視能訓練科                           | 愛知県名古屋市  |
| 13 | 愛知淑徳大学              | 医療福祉学部医療貢献学科<br>視覚科学専攻          | 愛知県名古屋市  |
| 14 | 大阪医専                | 視能療法学科                          | 大阪府大阪市   |
| 15 | 大阪医療福祉専門学校          | 視能訓練士学科                         | 大阪府大阪市   |
| 16 | 神戸総合医療専門学校          | 視能訓練士科                          | 兵庫県神戸市   |
| 17 | 川崎医療福祉大学            | 医療技術学部感覚矯正学科<br>視能矯正専攻          | 岡山県倉敷市   |
| 18 | 松江総合医療専門学校          | 視能訓練士科                          | 島根県松江市   |
| 19 | 福岡国際医療福祉学院          | 視機能療法学科                         | 福岡県福岡市   |
| 20 | 平松学園<br>大分視能訓練士専門学校 |                                 | 大分県大分市   |
| 21 | 九州保健福祉大学            | 保健科学部視機能療法学                     | 宮崎県延岡市   |

平成 21 年度  
教員研修会報告書

平成 22 年 3 月 31 日発行

発行 日本視能訓練士養成施設連絡協議会

平成 21 年度事務局 国際医療福祉大学

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600-1

<許可無く複写転載を禁ず>